

1. 進路指導部の取り組み

進路指導部では様々なイベントを行ってきました。今回は1学期に行ったイベントの主だったものを紹介します。

①第1回3学年進路ガイダンス(5/14)

進路の選択肢を広げることを目的に、県内外の企業・学校に来校してもらい説明会を実施しました。外部講師の方から就職・進学希望者を対象にそれぞれ講演していただき、その後は20社の企業と31校の学校の中から興味がある分野に関してガイダンスを受けました。関心のある企業や学校から直接話を伺うことができ、希望する進路への理解を深めることができました。



②第1回および第2回社長と語る会(6/10、7/14)

本校では各業界で活躍する方と進路や人生について語り合うことで、将来を深く考える契機とすることを目的とした「社長と語る会」を開催しています。第1回は有限会社山下商事 代表取締役社長の山下雅章氏、第2回は株式会社富洋組 代表取締役の近藤雅幸氏を講師に招き、会社の事業や業界の現状に加え、雇用や福利厚生等の情報および会社運営のトラブルなど、普段聞く機会の少ない貴重なお話を伺いました。立場や価値観の異なる大人と語ることで、学生の視点以外から新たな気づきを得る貴重な機会となりました。



③公務員説明会(7/11)

高卒・大卒で公務員を希望する生徒を対象に公務員説明会を実施しました。青森県庁、国土交通省、つがる市役所の職員が来校し、それぞれの仕事内容や働くうえで必要な適性と知識、採用試験に関するスケジュールについての説明を聞くことができました。説明や質問など職員との対話を通して理解を深めることができ、進路決定および進路目標実現の一助となりました。



2. 充実した夏季休業とするために

みなさんの夏季休業が充実するよう、期間中に意識することをまとめたので参考にしてください。

○3 学年

1. 進路に向けた準備

各々が希望する進路の実現に向けた準備が重要となります。就職では面接の柱となる履歴書の志望動機が最も大切です。似た職種や条件の企業が複数ある中で、その会社でなければならない理由をしっかりとまとめましょう。その会社ならではの魅力や強みに、これまで培った自分の知識や経験がどのように関係するかなど、自分の想いをしっかりと組み込みましょう。また、履歴書の内容を添削してもらっている間に試験に向けた学習を行うなど、時間を効率的に活用して準備を進めてください。進学においては今の時期は総合型・推薦の準備が第一ですが、その他の試験方法においても、残された期間の使い方を考え、この程度でいいと妥協せずに準備を重ねましょう。

2. 健康と体調管理

履歴書や出願の準備、試験に向けた勉強など、疲労や緊張、不安から体調をくずしてしまう場合があります。やるべきときは集中して頑張り、休むときはしっかりと休養することを心掛けて過ごしましょう。特に「後で頑張る」と先送りにすると時間が足りず追い込まれ、健康的な生活習慣を保てなくなることも多いため、堅実に努力を積み重ねて余裕を持った生活ができるよう意識しましょう。

○1、2 学年

1. 自己分析を深める

自分の興味や得意なこと、将来の希望を整理しましょう。自分の得手不得手を知り、「できること」と「できないこと」を深く考えてみましょう。それをもとにどんな仕事や分野に進みたいのか、自分自身を客観的に見つめる時間を作りましょう。自分を知ることは自分の人生で大きな助けになります。

2. 進路調査をする

自己分析に加え、進学および就職先について情報収集を行い、進路の選択肢を広げていきましょう。今はインターネットや進路相談会、オープンキャンパスなど、知る手段や機会は豊富にあります。これらを活用して進路に関する様々な情報を集めましょう。特に同じような分野の進学先や就職先の違いを理解することは、進路を決定するうえで欠かせないポイントとなるため、時間を確保しやすい夏季休業を利用して情報収集を行いましょう。また、進学希望者も進学先を卒業後は就職するというをよく考えましょう。その仕事をするために不足する知識や技術を学ぶために進学するのであって、遊ぶために高額な授業料を払うのではありません。入学すれば知識・技術が身に付き働けると安易な気持ちで考えず、努力して身に付けるから働けるのだということを肝に銘じて進路を考えていきましょう。

3. 長期休業中にしかできないことに挑戦する

夏祭りの運営といったボランティア活動への参加や長期休業中のアルバイトなど、学校外での活動に積極的に参加してみましょう。学校生活では体験できない地域の様々な年齢層の方と協力して活動するという経験と実績は、就職・進学における武器や自信になります。3年生になってからでは、進路活動が本格化し時間の確保が難しいため、普段は忙しく参加できない生徒もこの機会を利用して積極的に挑戦してみましょう。また、新しい趣味に挑戦することは自らの可能性を広げるきっかけとなるため、積極的に新しいことに取り組んでいきましょう。